

Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチのアドレス解決プロトコル (ARP) インспекション Properties 設定

目標

アドレス解決プロトコル (ARP) はレイヤ2 で、OSI モデルのデータリンク層、動作し、宛先ホストの MAC アドレスに参照用テーブルを使用して IP アドレスをマッピングする 変換を別名 ARP キャッシュ提供します。

ARP インспекションは成功すれば悪意のあるサードパーティがネットワークトラフィックを代行受信し、制御することを可能にすることができる ARP キャッシュ中毒を防ぐために確立されます。この資料の目標は Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチの ARP インспекション Properties を設定することです。

下記に与えられると同じ順序で完了されるきちんと機能する ARP インспекションに関しては次のコンフィギュレーション必要:

1. ARP インспекション Properties、この技術情報でカバーされる。
2. 設定 インターフェイス設定は、記事を、この設定のための Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチのアドレス解決プロトコル (ARP) インспекション インターフェイス設定参照します。
3. 設定 アクセスコントロールおよびアクセスコントロール ルールは、記事を、この設定のための Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチの ARP アクセスコントロールおよびアクセスコントロール ルールの設定参照します。
4. VLAN の設定を設定して下さい、記事を、この設定のための Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチのアドレス解決プロトコル (ARP) インспекション VLAN の設定 設定参照して下さい

適当なデバイス

- Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチ

[Software Version]

- 1.3.0.62

ARP インспекション Properties

ステップ 1. Web コンフィギュレーションユーティリティへのログインは > ARP インспекション > Properties 『Security』を選択し。Properties ページは開きます:

Properties

ARP Inspection also uses the [DHCP Snooping Binding database](#) if it is available.

ARP Inspection Status: Enable

ARP Packet Validation: Enable

Log Buffer Interval: Retry Frequency sec. (Range: 0 - 86400, Default: 5)
 Never

Apply

Cancel

呼び出します。ARP インспекション Status フィールドでは、ARP インспекション 機能を有効にするためにイネーブルをチェックして下さい。この機能はデフォルトで無効になります。

注: ARP インспекションは信頼できないインターフェイスでだけ実行された。信頼されたインターフェイスからのパケットは転送されます。信頼しました *Settings* ページ インターフェイスのインターフェイスを設定できます。

Properties

ARP Inspection also uses the [DHCP Snooping Binding database](#) if it is available.

ARP Inspection Status: Enable

ARP Packet Validation: Enable

Log Buffer Interval: Retry Frequency sec. (Range: 0 - 86400, Default: 5)
 Never

Apply

Cancel

ステップ 3 ARP パケット 検証 フィールドでは、ARP のパケット 検証を有効にするためにイネーブルをチェックして下さい。この機能はデフォルトで無効になります。このフィールドがチェックされる場合局外者不正侵入を防ぐために、次の値は既存のデータベースと比較されます:

- 発信元MAC —イーサネットヘッダーのパケットの送信元MACアドレスは ARP要求の送信側の MAC アドレスに対して比較されます。このチェックは ARP要求および応答両方で実行された。
- 送信先MAC —イーサネットヘッダーのパケットの宛先MAC アドレスはデスティネーション インターフェイスの MAC アドレスに対して比較されます。このチェックは ARP応答だけのために実行された。
- IP アドレス—これは無効 な、予想外 IP アドレスのための ARP データ 内容を比較します。IP アドレスは 0.0.0.0、255.255.255.255 およびすべての IP マルチキャスト アドレスが含まれています。

また、ARP インспекションは DHCPスヌーピングがアクセスコントロールに加えるパケットの IP アドレスが支配する預金払戻し票に有効になる場合 DHCPスヌーピング バインディング データベースを使用します。DHCPスヌーピング バインディング データベースの設定のさらに詳しい詳細については *Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチの DHCPスヌ*

ーピング バインディング データベース 設定と資格を与えられる記事を参照して下さい。
Properties ページの上を DHCPスヌーピング バインディング データベース リンクをクリックして DHCPスヌーピング バインディング データベース 設定 ページに行けますかもしれません。

Properties

ARP Inspection also uses the [DHCP Snooping Binding database](#) if it is available.

ARP Inspection Status: Enable

ARP Packet Validation: Enable

Log Buffer Interval: Retry Frequency sec. (Range: 0 - 86400, Default: 5)

Never

Apply Cancel

ステップ 4 ログ バッファ 間隔 フィールドで、次のいずれかの Radio ボタンをクリックして下さい:

- 再試行周波数—送信されるべき破棄されたパケットのための有効 Syslog メッセージ。メッセージが送信される周波数を入力して下さい。デフォルト周波数は 5 秒です。範囲は 0 から 86400 秒からです。
- 決して—無効 SYSLOG 破棄されたパケット メッセージ。

Properties

Success. To permanently save the configuration, go to the [Copy/Save Configuration](#) page or click the Save icon.

ARP Inspection also uses the [DHCP Snooping Binding database](#) if it is available.

ARP Inspection Status: Enable

ARP Packet Validation: Enable

Log Buffer Interval: Retry Frequency sec. (Range: 0 - 86400, Default: 5)

Never

Apply Cancel

ステップ 5.変更を行なうために『Apply』をクリックして下さい。設定は定義され、実行コンフィギュレーション ファイルは更新済です。